

石狩市における再エネデータセンターを核とした地域エネルギーシステム構築事業

- 応募事業： 自立・分散エネ【設備等導入】
- 事業実施地：北海道石狩市
- 代表事業者：京セラコミュニケーションシステム株式会社
- 共同事業者：北海道石狩市

○地域課題

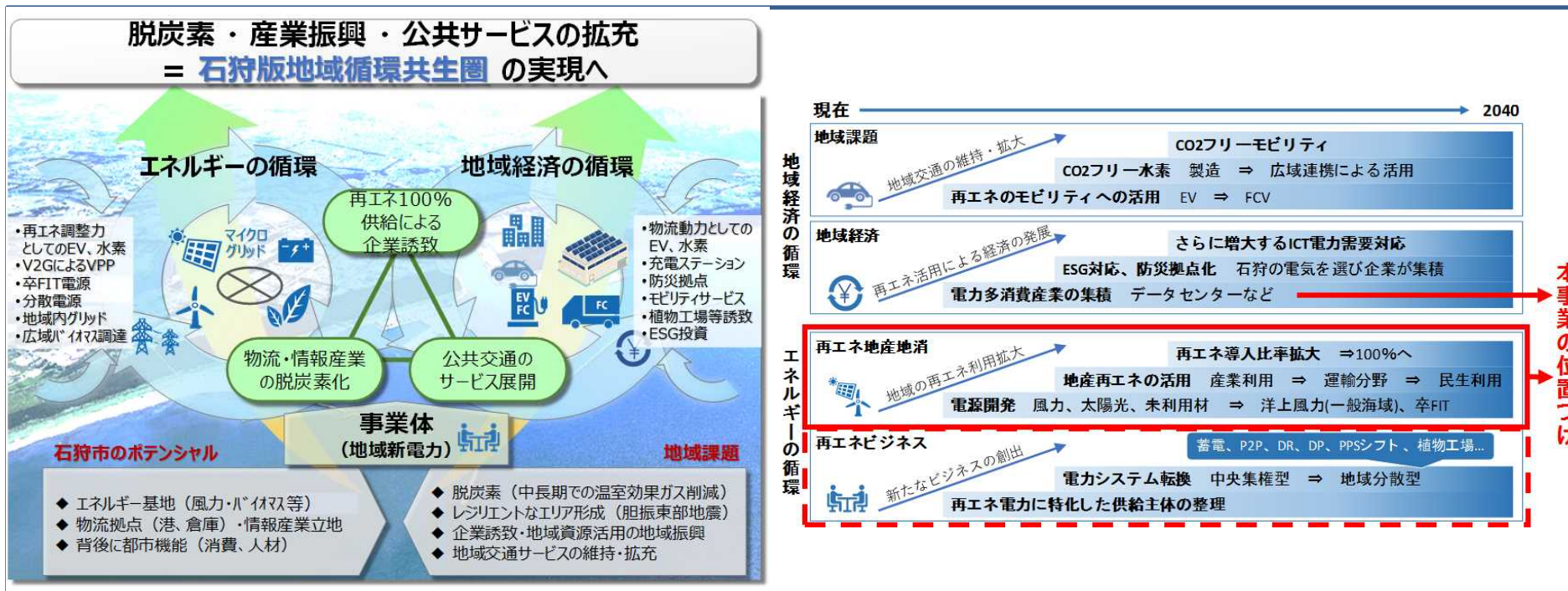
相互に関連する環境・経済・社会の地域課題として、特に下記の4つがある。

- ①脱炭素（中長期での温室効果ガス削減）、②レジリエントなエリア形成（胆振東部地震）、③企業誘致・地域資源活用の地域振興、④地域交通サービスの維持・拡充

○本事業を活用した地域課題の解決方策

再エネ100%直接供給で運営するデータセンターを構築し、①気象による変動性、②系統接続送電枠、③事業収益性など、複数の課題解決を同時に図る。本事業により、産業活性化と脱炭素のデカップリングを実現し、大規模災害時にも機能するレジリエンスを高め、上記の複数の地域課題の同時解決を図る。

○目指す地域循環共生圏のイメージ



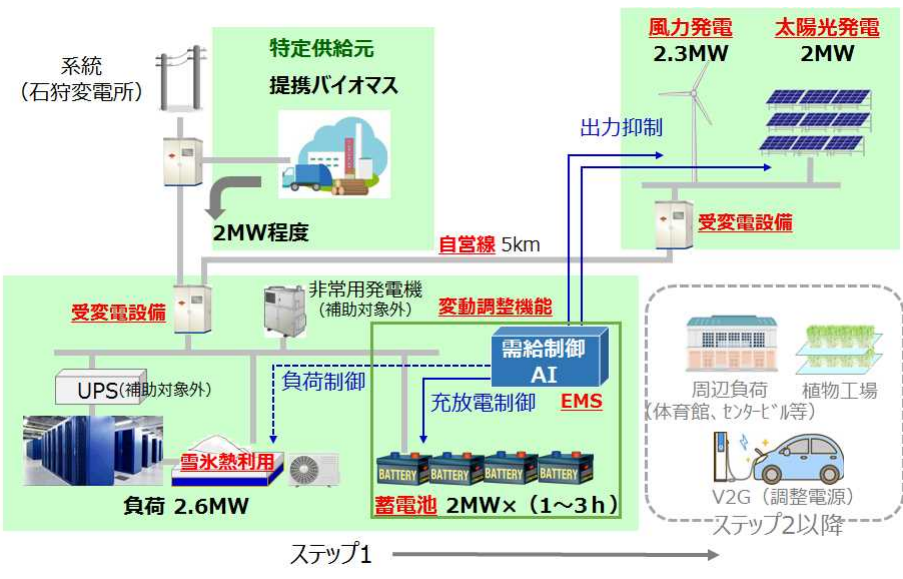
○事業概要

本事業で導入する「ゼロエミッションデータセンター」では、自社で風力発電、太陽光発電、雪氷熱利用及び自営線を設置し、再エネ電力を活用する。また、新設予定の提携バイオマス発電所からの買電や自営線を敷設し、段階的に当グリッドに近隣需要家も組み入れ、「再エネ100%ゾーン」を創出する。また、AIを活用した再エネ変動調整機能により、蓄電投資を抑えつつ再エネ抑制量を最小化できるシステム開発を行い、設備導入によるCO2排出削減効果を最大限発揮させるとともに、事業性を高める。

本事業は、「地域経済の循環」と「エネルギーの循環」の双方のベースとして位置づけられる石狩版地域循環共生圏のコアとなる事業である。「地域経済の循環」として、石狩市が誘致を進める電力多消費型産業であるデータセンター事業の実施を通じ、地域経済発展に寄与する。また、「エネルギーの循環」として、地域の再エネ利用拡大を牽引する電源開発、さらにデータセンターを再エネ100%で運用するなど、再エネ導入比率拡大を進めるためのコア事業として機能していく役割を担う。

○導入予定の設備等のイメージ

補助対象設備(赤字記載):風力発電、太陽光発電、雪氷熱利用、変動調整機能(蓄電池、EMS)、受変電設備
自営線敷設範囲:①風力/太陽光発電施設(新港南1丁目)から②再エネ活用型データセンター(新港中央1丁目)まで約5km



○事業の実施体制

